

眼とメガネの健康情報

世界に羽ばたく日本の鯖江

世界三大産地

メガネの世界三大産地に、福井県鯖江市が入っていることをご存知でしょうか？各産地は、その特徴から「デザイン」のイタリア・ベッルーノ、「価格の中国・深圳、東莞」「品質の日本・福井県鯖江」とも呼ばれています。

鯖江は日本国内のメガネフレーム製造シェア9割以上を誇り、全世界の約2割にあたるメガネを生産しています。



近代メガネの歴史

国内で本格的なメガネ生産が始まったのは、明治に入ってからです。文明開化によって印刷技術が向上し、新聞や書籍が一般にも普及することでメガネの需要も増加の一途を辿ります。しかし、当時



の日本では近代的なメガネ生産技術が無く、メガネは熟練した職人が一から手掛けるフルオーダー品として庶民には手の届かない高級品でした。

そこで明治政府は1873年、技術者の朝倉松五郎をヨーロッパに派遣します。彼が機械によるレンズ研磨技術を得て帰国し、それまで江戸の職人が手で磨いていたレンズの大量生産が可能になった事で、現代に至る日本の近代的なメガネ産業が花開いていきました。

鯖江の歴史

そんなメガネの隆盛にいち早く着目したのが、「国産メガネの祖」といわれる増永五左衛門でした。五左衛門の生まれた村は、田んぼが少なく、雪の積もる冬は仕事がなく家に閉じこもる日が続く貧しい村だったそうです。28歳の頃、麻生津村の村会議員になった五左

衛門は生活の苦しい農民のために冬でも収入を得られる方法を考え、実行に移しました。当時メガネ製作の最先端を行く東京・大阪からメガネ職人を技術指導員として招聘し、工場を建ててメガネ生産を始めたのです。比較的小さなスペースで事足りるメガネ生産は、山間で広い土地が少ない鯖江に合っており、農民たちの農閑期の副業になる優れたアイディアでした。

チタンフレーム発祥の地

1983年に、チタン製メガネフレームの開発・生産を世界に先駆けて成功したことで福井県鯖江は世界的に有名になりました。従来のメガネに多く使われていたニッケル合金に比べて、金属アレルギーを起こしにくく、軽量かつ丈夫で錆びないチタン素材はまさにメガネにとっては理想的な金属でした。しかし、固く曲げにくい上、溶接も難しく、ヨーロッパでは作るのを諦めていたそうです。そのチタン加工を可能にしたのが、他では決して真似できない日本の職人ならではの、細やかな技術とこだわりによる試行錯誤の結果です。これによって、鯖江は国際的なメガネの産地としての「Made In JAPAN」という地位を築き上げていくことになりました。

現在の状況

現在では、価格の安い中国産や高い付加価値を持ったイタリア産に押され、日本のメガネ産業は苦戦しているのが現状のようです。しかし、長年受け継がれた「Made In JAPAN」の技術力は健在で、高品質メガネと言えます。当店でも扱っているメガネも、高品質な鯖江製を中心に揃えて居ります。「Made In JAPAN」のフレームに出会ったら、それを生み出している鯖江の名前も一緒に思い出して下さい。

スタッフコラム

時折、お休みの日に日帰りバスツアーに参加します。自宅に比較的近い場所から出発するので、とても便利です。バスに乗っているだけで目的地へ連れて行ってくれるので、車内でウトウトとしている間に現地に着いていた事が多々あります。「見学時間や場所が決まっている」「座席のリクライニングは倒せない」など団体行動ならではの制約はありますが、個人では予約が取りにくい施設や、特別な許可が必要な場所に連れて行ってくれるツアーもあります。

新しい企画がどんどん発表されるので、旅行会社から届く冊子を見るだけでも楽しめます。 鴨居店 I



ベターなものより—ベストなものへ



Optical Shop
Nakamura

中山駅前店



〒226-0014 横浜市緑区台村町290
☎ (045)931-2499(代) AM10:00~PM8:00
＜年中無休＞ 中山商店街第1・第2駐車場(1時間無料)

鴨居駅前店



〒226-0003 横浜市緑区鴨居1-7-1
☎ (045)933-0003(代) AM10:00~PM8:00
＜年中無休＞

ららぽーと横浜店



〒224-0053 横浜市中区港町4035-1(3F)
☎ (045)414-2424(画) AM10:00~PM9:00
＜年中無休＞